

4 打差逆転 初V

「私はショットメーカー」

通算1アンダー、215

長崎日大高3年の櫻井心那(オーシャンパレス)



安定したショットが初優勝をもたらした。最終ラウンドは3バーディー、2ボギーの71。18ホール中、パーオンできなかったのは3ホールだけ。「私はショットメーカー」と自信を持つほどで、ミスショットで崩れるライバルたちを横目に念願の九州女王の座を射止めた。「この1年の一番の目標だったので素直にうれしい。始まる前は緊張していたけど、平常心で回れました」と笑顔をはじめさせた。

首位の中道から4打差の2位でのスタート。アウトを2バーディー、2ボギーのパープレーでしのぐと、その中道がノーバーディー、4ボギーの40と崩れる。同組の岩切

が35。最終組の3人は折り返し時点で通算パープレーで並んだ。差が出たのはバックナイン。櫻井が11番ミドルで6mのバーディーパットを沈めて頭1つ抜け出す。14番ロングでは櫻井のパーに対して中道がボギー、岩切がダブルボギー。2人との差は「3」に広がった。「ここでいけるかな、と思いました」と初Vを確信する。

小さい頃から期待の星だった。長崎市の山里小6年の時、九州小学生大会で優勝。コロナ禍の昨年4月のOBS九州女子ジュニアを制覇し、今年4月、プロのステップアップツアー・九州みらい建設グループレディースではベストアマを手にした。優勝争いという経験は数多い。経験と言えば、2ラウンド目の日没サスペンデッドも「こういう経験は、これからのいい機会だと思います」とポジティブに考える。



今年最大の目標を達成した後は日本女子アマチュア選手権とプロテストという、もう一つ上の目標に向かう。「日本女子アマはいろんな年代の人が出場するし、そんな人に交じって雰囲気味わいながら、プロテストも想定しながら戦いたい。もちろん優勝を目指したい。今回の優勝は自信になりました」。九州女王から日本一へ。決してやさしいことではないが、櫻井自身が「下手くそ」というパッティングを改善できれば、チャンスは生まれる。

◇上位選手の一言

2位・荒木優奈（第3ラウンドはベストスコア70で通算1オーバー、217）「バーディーが5個も取れて良かった。もったいないボギーもあったし、それをなくしたい。（雨の）2日目を75に抑えられたのが良かった。日本女子では優勝争いに絡めるように頑張りたい。ボギーを減らして、頭を使ったゴルフをしたい」

3位・中道ゆい（第3ラウンドに78と崩れ4打差のリードを守れず優勝を逃す）「悔しいです。ショットが悪くて、パットもまっすぐ打てなかった。緊張もあったけど、かみ合わせが悪かった。プロテストの2次では頑張りたい」

4位・岩切美空（一時はトップに並ぶが、最後の9ホールは41と崩れる）「前半で追いついたけど、後半は優勝を意識して自分を客観視できなかった。自分のしたいスイングができなかった。まだまだ足りません。2次のプロテストまで時間はあまりないけど、スイング練習をしっかりとやりたい」



会場となったブリヂストンCCのクラブハウス



15、16番からは九州新幹線が見える